

# 「しつけなら殴っていい」

## 児童虐待の 深部 第3部

親の心理

親が子に虐待をする背景にあるのは「世代間の連鎖」だけではない。暴力を「しつけに必要」と信じ込み、エスカレートさせてしまう例も後を絶たない。

エリ(44)(仮名)が初めてわが子に手をあげたのは15年前、長男が2歳の時だ。生活のため、スナックで働いていた。夕方に長男を保育所に預け、朝方に引き取って帰る生活。毎日くたくたで、長男の食事を作るのも、公園に連れて行くのも面倒だった。おなかをすかせた長男は、いくら注意しても勝手に棚のパンを食べた。

「何回言ったらわかるんや」。ある時、尻を平手で打った。長男の体がこわばった。「もっと強くなければ、怖がって言うのを聞かろう」。

顔や頭もたたいた。足でけりつけるようになった。

長男が小学生になると、勉強も運動も苦手なのが気になった。何か失敗するたび、「何でできへんねん」とじろなり、またひっぱたいた。決して憎かったわけではない。ただ、「周りから認められる『いい子』になってほしい」と必死だった。

夫も「しつけなら殴ってもいい」という考えを持っていた。飲酒癖がそれに輪をかけて。長男が11歳の時、財布から金を抜いたため、夫婦で激しい暴力を加えた。顔や体はあざだらけだった。

数か月後、泥酔した夫は、長男が拾った金を交番に届けなかったことを知り、目が内出血するほどめちめちやに殴った。

長男は救急搬送され、夫は傷害容疑で逮捕された。

## 「いい子」願って体罰加速



「コモンセンス・ペアレンティング」の受講風景。ペアになった受講者が親と子の役割を演じ、子が親から見下ろされた時に感じる圧迫感を体験する(堺市で)＝若杉和希撮影

体罰」を容認する意見が56%に上った。

民法は、親権の一つとして「懲戒権」を認めている。しかし、それを逸脱した虐待が横行していることを受け、12年施行の改正民法には、親権について八子の利益のためにVという文言が添えて付け加えられた。

「親は『愛しているから子供はわかってくれる』など独自の論理で暴力を肯定しがちだ。しかし、実際は『痛みによる支配』に過ぎない」と西沢哲・山梨県立大教授(臨床福祉学)は指摘する。「子供は自分を守るため、感覚をまひさせ、痛みを感じなくなる。そのため親は子の反省を確かめようと、暴力をエスカレートさせてしまう」

### 親への支援

コモンセンス・ペアレンティング(Common Sense Parenting)は米国で開発された子供の養育技術。子供による発達の違いを理解し、寄り添う日常行動を、ロールプレイングなどで繰り返し訓練する。親への支援

プログラムはほかにも複数あり、多くの児童相談所(児相)で採用されているが、児相は子供のケアに追われており、親への支援態勢は十分ではない。支援を受け入れられる状態にある親が少ないのも課題で、大阪市児相の場合、プログラムの利用者は虐待相談の件数全体の5%程度にとどまっている。

相談所に一時保護された。夫には、保護観察付き執行猶予判決が言い渡された。裁判官は「アルコール依存症も犯行の『一因』とした上で、『しつけと称した虐待が長く続いていた』と述べた。

それでもエリは、「ちよつとしつけが行き過ぎただけなのに」と戸惑っていた。「じゃあ、暴力なしでどうやってしつけるのか」

疑問に答えたのが、行政の子育て支援担当者から紹介された大阪の民間団体「OGBイーヒューマンネット」が行う「コモンセンス・ペアレンティング」(CSP)というプログラムだった。

CSPでは、参加者が交互に親子の役割を演じ、ほめ方や叱り方を体験しながら学んでいく。

「暴力や暴言を使っていたのは、あなたが悪かったわけ

じゃない。ほかの方法を知らなかっただけなんですよ」。講師の言葉に、エリは扉が開いたような気がした。「つらかっただろう」。初めて長男の身になり、涙があふれた。今、高校生になった長男との関係は少しずつ改善している。夫はアルコール依存症の治療を受け、酒をやめた。エリはCSPの指導者になろうと勉強中だ。「子供たちが悲しい思いをする前に、暴力抜きで愛情を伝える方法をみんなに知ってもらいたいんです」

(喜多俊介)

ご意見・ご感想は、〒530・8551 読売新聞大阪本社社会部、FAX 06・6361・0733、メールosaka2@y

読売新聞 平成27年6月10日掲載

逃走した理由について「味客疑者は、RVを運転中、王政屋敷に入っていた上砂川町の土木作



### <掲載のお知らせ>

本日、6月10日(水)の読売新聞の社会欄(後ろから2枚目、テレビ欄の裏)に、コモンセンスを活用しながら、子育てに取り組んでくださっているオッジヒューマンネットの会員様の記事が掲載されています。

とても子育てが大変だった彼女は、現在、上級指導者検定にも進まれ、ご自身が助かった道を、たくさんの方々に示し助けてほしい思いいっぱいに頑張ってください。後悔いっぱいの辛い過去を振り返りながらのたびたびの取材にも、ひとりでも多くの方の助かりを願い、応じてくださいました。辛かった過去のお話には、涙が浮び、また、自分みたいな大変な子育てをされている方を一人でも助けたたい...との彼女のその思いに何度も胸が熱くなります。

まず、彼女に、「ようこそ、コモンセンスに出会ってください、ありがとうございます！」から始まり、スタッフ一同、たくさんの感謝とこれからより良い指導者へ進まれる最大のエールをお届けします♥

子育てがとても楽しくなった...子どもがとっても可愛い♥...と話してくださることは、私たちにとっても、本当に大きな喜び、大きな活動への原動力となっております。(\*\*\*さん、本当にありがとうございました。益々活動して良かった！という人生に必ずご案内したいと思っていますから、一緒にがんばりましょうね！)

そして、叩いたり、食事を抜いたり、ベランダへほり出してしまっている子育て中の方！

抜け出したいと思いながら、最悪のサイクルにはまってしまっている方！

「他の方法さえ知っていれば...」「その他の方法を知らないから...」まだまだ出来ることはたくさんあります！

少しでも子育てが楽になりたい方！本日の記事をぜひご参考に、あちこちの地域のコモンセンスの取り組みに参加してみてくださいね。

それから、全国の指導者皆さま、ぜひ、この記事が更なる活動への意欲、原動力になり、より大きな支援活動、喜び多い支援結果につながりますよう、彼女とともに願っています。

(講座案内やお問い合わせは、オッジヒューマンネット HP:<http://oggi-csp.jimdo.com/> または直接 [cspnet2011@yahoo.co.jp](mailto:cspnet2011@yahoo.co.jp) ヘメールを。

もしくは、日本事務局の HP:<http://csp-child.info/>でプログラム管理団体、講座案内をご覧ください)

P S : 読売新聞の喜多様、しっかり内容を理解した上で、記事を...と講座へも再々ご足労頂き、ありがとうございました。

これを機に、叩かず、怒鳴らずに育てる方法がある！ということをもっともっと日本全国に広げていくために。そして、子どもを生んでしまう前に...の高校・中学の授業ももっと拡大すれば...と願いをこめて、全国の指導者皆さまと、益々がんばりますね！